

東京講演会を開催

10月7日に東京の有楽町朝日ホールにおいて、第9回東京講演会を開催しました。

この東京講演会は、日頃、関西を中心に活動している奈良文化財研究所の調査・研究活動の成果を、広く東日本の皆様にご紹介することを目的に2010年から始めた企画です。今年で9回目の開催となりますが、毎回、切り口を変えて文化財研究の魅力や面白さをお伝えしており、今回は「デジタル技術で魅せる文化財—奈文研とITC—」と題して開催しました。

奈文研の主たる調査研究業務は、遺跡や遺物、古文書、文化財建造物等「古いもの」を対象としています。しかしながら、そこで得られたデータの整理・蓄積、公開・活用には、最先端のデジタル技術を利用しています。記録類の恒久的な保存、効率的かつ迅速な情報処理、効果的な情報発信等に今やデジタル技術は欠くことができません。

そこで、今回は、全国で刊行された発掘調査報告書を順次、電子化し、ウェブ上で一般に公開することを目指す『全国遺跡報告総覧』事業のほか、最新の3次元計測の方法、長期にわたって多くの方々にご利用いただいている木簡データベースの新たな展開、「高松塚古墳」のデジタルデータによる築造過程の復元、地震や火山噴火の予知・予測を目指した災害痕跡データベースの構築等、奈文研でおこなわれている数々のデジタル技術を活用した最新の調査・研究事例について、6名の研究員から紹介いたしました。

当日の来場者は340名で、メモを取りながら熱心に聴き入る方も多く見受けられました。

(研究支援推進部 梶原 孝次)



講演会風景

韓日発掘交流に参加して

国立慶州文化財研究所と奈良文化財研究所の発掘調査交流の一環で、初めて奈良を訪問し、2017年9月11日から11月2日まで東大寺東塔院跡と藤原宮大極殿院の発掘調査に参加しました。日本語があまりできず、意思疎通の難しさはありましたが、どちらの遺跡も韓国で私が発掘調査に携わった百済王興寺址や新羅王京遺跡等と比較できる遺跡で、興味深い成果を得ることができました。

東大寺東塔院跡の発掘は東大寺、奈良県立橿原考古学研究所との合同調査で、様々な機関の研究者と一緒に発掘しました。滞在中、現地説明会にも参加する機会がありました。800名を超える見学者が訪れたことが印象的で、慶州での発掘現場の一般公開のあり方を考える上で参考となりました。藤原宮大極殿は天候不順のため調査参加日数が少なかったのが残念ですが、発掘調査の開始時期に立ち会うことができ、貴重な体験となりました。

発掘調査のほかにも須恵器窯等の遺跡や博物館の見学、研究者との出会いを通じて、韓日の古代文化の比較や遺跡の整備・復元等の活用について考える時間をもてたことも、非常に意義深いものでした。

最後に滞在期間中、発掘調査や遺跡踏査、日々の生活を無事に終えるにあたって、様々な配慮をしてくださった研究所の皆様にお礼申し上げます。今後も両機関の持続的な交流が、個人の研究力増進だけでなく、両国の古代文化研究の一助となる基盤となっていくことを願います。

(国立慶州文化財研究所 鄭 聖睦、

翻訳 諫早 直人)



東大寺東塔院跡での作業風景